

地域人材ネット

交流型農村をめざした、地域資源の付加価値を高める地域づくり

山城 定雄 (やましろ さだお)

公益社団法人 沖縄県地域振興協会 プログラムオフィサー



○ 登録者情報

所在地

沖縄県国頭郡東村

略歴

1979年 東村役場採用。「村民の森つつじ園」整備に関わる。つつじ祭り&ダムまつり等イベント企画・運営
1995年 企画課長。地域資源を活かした「エコツーリズム&グリーン・ツーリズム」の推進を柱とする21世紀ビジョン策定。
2002年 企画観光課長。交流型農村をめざした村の観光拠点施設等ハード・ソフト事業立ち上げ
2003年 沖縄県エコツーリズム推進事業検討委員
2005年 「東村ふるさと振興(株)」出向。都市部の子どもたちの体験学習受入「セカンドスクール」立ち上げ
2005年 総務省交流居住推進研究会委員
2007年 振興事業推進室長。総合農産加工施設整備プロジェクトに関わる
2010年 農林水産課長。パインアップル等ブランド化に関わる
2013年 定年退職。沖縄県地域づくりネットワーク副会長&運営委員長
足元の地域資源の付加価値を高める自然体験滞在型観光などの取り組みを行政と民間の協働の取り組みが評価され、「2003年 地域づくり総務大臣表彰(団体)」「2004年 過疎地域自立活性化優良事例表彰「総務大臣賞」(団体)」「2005年 オーライ!ニッポン大賞「審査委員会会長賞」(団体)」「2006年 内閣府沖縄総合事務局 沖縄振興功績者表彰(個人)」など受賞。

著書・論文等

- 「沖縄力発掘!本土復帰40周年記念講演集～内閣府沖縄総合事務局」(2013年3月)
- 「沖縄地域産業の未来～交流型農村による産業おこし～新評論」(2012年8月)
- 「地域開発～交流型農村による産業おこし～(一財)日本地域開発センター」(2012年6月)
- 「ダム技術～花と水とパインの特色ある村づくり～ダム技術センター」(2009年1月)
- 「町村週報～交流型農村をめざして～全国町村会」(2005年4月)
- 「地方財政～地域資源の付加価値を高める地域づくり～地方財務協会」(2004年2月)

〇 交流型農村をめざした、地域資源の付加価値を高める地域づくり

取組の内容

- ・東村は、かつては林業依存の貧しい村でこれといった産業も知名度もありませんでした。そのような中、1990年の基幹作物のパインアップルの自由化やバブル崩壊後の農業を取り巻く環境が厳しい状況におかれ、農業の再生を図ることが緊急の課題となりました。また、山野に自生していた「つつじ」も開発や盗伐により絶滅が心配されていました。そこで、村民総参加により6年の歳月をかけて手造りの「村民の森つつじ園」を完成させました。この公園を舞台に「東村つつじ祭り」が行われ、今では沖縄の春を彩るイベントとなっています。
- ・また、東村では地域の宝(資源)を見出し、付加価値を高める手段としてエコツーリズムやグリーン・ツーリズム等の体験型観光と農業の両立による持続可能な交流型農村をめざした取組みが行われています。1999年にはエコツーリズム協会、2000年にはブルーツーリズム協会、2004年にはグリーンツーリズム研究会、2005年には観光推進協議会が設立され、官民一体の取組みが展開されています。
- ・農産物の自由化、バブル崩壊の荒波で揺れる中、交流事業が大きな成果を得ることができたのは、「ビジョン」(村の目指すべき方向)を住民にねばり強く説明し官民協働で取り組んだ成果です。ビジョンがあったからハード・ソフトの相乗効果の発揮に繋げるなど、「行政がタネを蒔き、民間が花咲かす」官民協働の取組みを行っています。

実績

- ・2000人足らずの小さな村で開催される「つつじ祭り」には、毎年数万人が花見に訪れ、これまで160万人余が訪れています。地域の活性化や村の知名度アップにも繋がり、村の魅力が広く県内外に知られるようになってきました。また、行政が仕掛けた住民参加の取組みの取組みは村の地域づくりの原点になっています。
- ・1998年に5万4千人余であった観光交流人口は、2011年には31万人余と飛躍的に伸びています。また、1998年に僅か1校でスタートした修学旅行の受入も2011年には406校と伸びています。農家民泊も1万人近く受け入れています。
- ・村がリーディングプロジェクトとして整備した施設も、2002年のオープン以来、35万人余の宿泊・体験を受け入れており、2003年からは、都市部の子どもたちを受け入れて、自然体験、農業体験、宿泊体験等を行なう「セカンドスクール」の取組みも、修学旅行の体験活動にもひろがり、90の学校・団体を受け入れています。
- ・雇用の効果も体験事業者、飲食店、加工施設等において260人余(パート含)の効果を生み出しています。
- ・村民所得も21世紀ビジョンがスタートした1996年には150万6千円であったのが、2010年に265万1千円(県平均202万5千円)と県内でも上位に位置しています。(村出身の女子プロゴルファー宮里藍さんの効果大)

工夫した点や苦労した点

基幹作物の自由化で農業を取り巻く環境が厳しいなか、交流型農村をめざした村づくりに当初は住民から農業を捨てた村づくりか?という疑問の声もありましたが、農業を捨てた村の未来はない。と説得。交流人口を増やし農業の再生を図るために地域の人にとっては当たり前の資源が価値あるものである「気づき」を得るため、外部の人(外から目線)を活用しました。

小さな地域では「出る杭は打たれる。しがらみ」もあります。それを乗り越えていかねばならないと思っています。



ひとことPR

“地域を元気にしたい”との想い(情熱)の一心で30年余地域づくりに取り組んできました。「ないものねだりでなく、あるものを生かす」これからも足元の地域資源を活かして地域が元気になる「タネ蒔き」のお手伝いをしたいと思っています。さらに、各地の多くの仲間との交流を続けることでモチベーションを持ち続けていきたいと思っています。退職後は30数年の地域づくり活動のノウハウを生かして“地域が元気になる”タネ蒔きの活動を行っています。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
	5	定住促進	11	その他
○	6	観光振興・交流		

連絡先

メールアドレス	s.yama.758133〔アットマーク〕gmail.com	その他	
---------	--------------------------------	-----	--

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。